

SJ(就労者に対する日本語教育)指導者 Can-do statements の自己評価表

国内外で働く、あるいは働こうとする外国人が増える中で、この分野の日本語教育・研修に携わる専門家が必要とされています。このような専門家を、「就労者に対する日本語教育指導者(略称: SJ 指導者)」と呼びます。SJ 指導者には、日本語教育だけでなく、企業活動とコミュニケーション教育に関する幅広い分野の知識や経験、そして、異なる立場の人々と信頼関係を築き、協働して教育実践や研修が実施できる力が求められます。そこで、SJ 指導者に求められる力を可視化するために、SJ 指導者 Can-do statements を開発しました。

★SJ 指導者とは？

SJ 指導者は、個別の教育・研修を一つのプロジェクトとするならば、プロジェクト・リーダー(指導者)に該当します。日本語教師だけでなく、企業人も SJ 指導者になり得ると考えます。例えば、「自分の専門は日本語教育だから企業のことはわからない」、「自分は企業人で、語学教育のことは素人なので専門家にお任せしたい」といった考え方をするのではなく、自分の専門性を活かし、ほかの部分は協働によりプロジェクトの目標を達成できるように導く、それが SJ 指導者です。

柱となるものは次の二つです。

1) 多様な人々が共に働く職場のコミュニケーションの円滑化をはかるため、コミュニケーション教育としての日本語教育プログラムを立案、実施、運営できる人材です。このコミュニケーション教育とは、単に口頭表現能力を指しているのではありません。職場で日本語を用いて課題を遂行したり、問題があれば解決したり、人間関係を構築したりしていくためのものです。

2) 学習者、就職支援関係者、企業関係者ら、それぞれが置かれた状況を把握し、必要に応じて協働しながら、個別の現場に最適な教育・研修を提供できる人材です。

★SJ 指導者 Can-do statements とは？

SJ 指導者 Can-do statements は、SJ 指導者に求められる能力を記述したものです。7つの分野(職務、環境デザイン他)に分けて、合計 33 の「主要 Can-do 項目」を示しました。

記述の際に、「理解できる」「把握している」「できる」という表現を、次の意味で使いました。

《理解できる》 その項目に関する情報を読んで、概要を理解できる程度の知識がある

《把握している》 SJ 指導者として活動を計画、実施する上で前提となる知識がある

《できる》 SJ 指導者として十全にできる

★SJ 指導者 Can-do statements で自己評価してみよう

33 項目をチェックすることで、指導者としての能力を自己評価することができます。以下の4段階で自己評価をしてください。

◎ よくできる ○ できる △ あまりできない × 全くできない

BPC 研修サービスのウェブサイト SJ 指導者 Can-do statements の詳細(各項目の「できる」を支える下位項目)、及び、できるかどうかを試してみるためのチェック教材を用意しましたので、判定に活用してください。△や×がついている項目をより深く学ぶためにもご利用いただけます。

SJ 指導者 Can-do statements 自己評価表

名前:

各項目について以下を基準に自己評価をしてください。

◎ よくできる

○ できる

△ あまりできない

× 全くできない

分野		主要 Cds	評価
1 背景	1	企業活動に関する社会・経済的背景を理解できる	
	2	就労者の置かれた社会的状況を理解できる	
	3	就労者に対する日本語教育の在り方を理解できる	
	4	企業の活動の概要が理解できる	
2 職務	5	学習者の職務の概要が理解できる	
	6	学習者の業務環境が理解できる	
3 言語教育	7	発音の学習をデザインできる	
	8	語彙の学習をデザインできる	
	9	表現・談話の型を抽出できる	
	10	評価方法及び基準を選定できる	
	11	学習者の日本語力を判定できる	
	12	適切な学習項目を選定できる	
	13	適切な教材の選定・作成できる	
4 異文化	14	適切な教室活動を計画・実行できる	
	15	タスクデザインができる	
	16	職場における異文化間問題が理解できる	
	17	職場における異文化間問題への解決策を検討できる	
5 コースデザイン	18	日本語教育・研修のニーズができる	
	19	ニーズ分析に基づいて、日本語教育・研修の目標設定ができる	
	20	日本語教育・研修の実施計画をたてることができる	
	21	コースの概要を関係者にわかるように説明できる	
	22	就職支援のコースデザインができる	
	23	企業研修のコースデザインができる	
	24	個人の学習者の職務遂行に特化したコースデザインができる	
25	ビジネススキルに特化したコースデザインができる		
6 環境デザイン	26	業務環境のデザインができる	
	27	日本人社員に対する助言・研修ができる	
7 コース運営	28	コース実施中の運営管理ができる	
	29	日本語研修の評価ができる	
	30	現状に臨機応変に対応できる	
	31	日本語研修事業の評価・改善ができる	
	32	日本語研修の報告が書ける	
	33	「指導者コミュニティ」に参加・運営できる	

それぞれいくつありましたか： ◎ _____ ○ _____ △ _____ × _____

★自己評価の結果のレベル参照の目安は、BPC 研修サービスのウェブサイトをご覧ください。